

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東北大学	整理番号	1-2-070
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	国際コンピテンシー人材育成教育プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	岡田 益 男		
(取組の概要)			
<p>本教育プログラムは、世界を舞台に活躍し、社会で指導的な役割を果たす人材に不可欠である課題探求能力育成と国際協調性、国際競争能力を育成することを目的とし、(1) 創造工学研修、(2) 海外大学との共同プログラム、(3) 海外大学との交流会の3つのプログラムより構成される。(1) 創造工学研修は、課題探求能力を涵養するために、1年次に実験・実習に力点を置いた体験学習型科目として少人数単位で実施されている。学生の国際性を育成するには、実際に海外大学の訪問や海外学生との交流が有効であり、(2) 国際的な協調性や競争力を育成する方策として、上記の「創造工学研修」で設定された幾つかのテーマをワシントン大学等海外大学と共同で実施している。(3) 工学部の専門分野別の5系をユニットとして、海外の大学との交流会を開催する。また、工学部長をリーダーとして海外の大学を訪問し、交流会を開催している。</p>			
(採択理由)			
<p>東北大学工学部・工学研究科全体で、世界を舞台に活躍する沢山の人材を工学分野で育成するための国際性ある創造的工学教育プログラムであり、海外協定大学と協力してプログラムを実施している点に特色があります。入学時から体験型学習を受けさせることは重要であり、実施当初から年々履修者数が増加し、新入生の82%が受講するにいたっていることは評価できることです。学生のときから、国際交流意識を創造工学研修の中で自覚させるのは優れた教育方法であると言えます。国際的競争の中で活躍できる人材は、異言語のバリアを経験して育つものであり、学生の積極的で果敢な挑戦を促す取組として、他大学にも参考になると考えられます。</p> <p>教育の成果に対する測定・評価については、十分な認識があるものの、現在検討中であり、今後の大きな課題だと考えられます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京外国語大学	整理番号	1-2-075
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	26 言語情報リテラシー教育プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	林 佳 世 子		
<p>(取組の概要)</p> <p>本教育プログラムは、インターネットと情報基盤を活用し、東京外国語大学外国語学部の教育課程全般の情報化をめざす取組である。大学の教室と世界の諸地域を直結させるインターネットは、世界の「言語と地域」に関する本学の教育を根底から変えつつある。</p> <p>本プログラムは、2000 年のキャンパス移転により情報基盤が整備されたのを契機に本格的にスタートし、すでに3年の実績をもつ。①情報基盤の整備、②多言語に特化した情報リテラシー教育の実施、③言語教育・専門教育における情報化した授業の実施のための授業支援、の3つの取り組みが行われ、その成果は、コンピュータ利用における学生の多言語操作能力と多言語情報の収集・処理能力の向上、「言語と地域」教育に対する学習意欲の増進、すぐれた卒業論文研究として結実している。本プログラムは外国語学部・情報処理センター・附属図書館の全学協働体制で実施されており、今後さらなる展開を計画している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、東京外国語大学が大学に課せられた使命である外国語教育を充実させるために、2000年から着手したコンピュータ情報化です。国際化や情報化が叫ばれてきた中で、当大学が努力し整備した情報化体制は、我が国の多言語教育の進展に資するものとして大いに評価することができます。この体制が一東京外国語大学の資産とされるのではなく国民の共有財産として他の語学系大学はもちろん広く開放されることが期待されます。ただ、この取組の教育上の具体的効果がみえていないくらいがあり、今後のこのシステムを活用した更なる工夫に期待したいと思います。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京工業大学	整理番号	1-2-164
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	進化する創造性教育		
申請単位	大学全体		
申請担当者	小川 浩平		
(取組の概要)			
<p>東京工業大学の“創造性教育”は戦後の「くさび型教育」と呼ばれる全人教育に始まる。</p> <p>その教育目的は、①潜在的創造能力に気付かせ自信を持たせる、②創造性と専門知識を連動させて科学技術者としての資質を向上させる、③未踏の課題に対する挑戦意欲を喚起させる、ことにある。</p> <p>この目的を達成するために、①入学から卒業まで継続した教育理念とカリキュラム編成の下に、②「自ら問題を発見し、自ら学ぶ」授業内容とし、③国際的活動・社会貢献などの新視点を常に取込むことに配慮してきた。</p> <p>教育体系としては、与えられた具体的な目的に対する達成度を競う「競創的創造性育成科目」、与えられた抽象的な目的に学生自身が目標を決めてその達成度を評価する「独創的創造性育成科目」、および創造することの動機付けとなる教養科目や専門科目からなる「基礎的創造性育成科目」を有機的に配置し、これらの実施を組織的に支援している。そして、創造性教育の集大成として学士論文研究を位置づけている。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、東京工業大学が明治 14 年の建学以来目指してきた、ものづくりを主眼に置いた創造性育成の伝統を基礎とした取組です。昭和 56 年の「制御工学設計制作」にはじまる「創造性育成科目」は今日 94 科目の規模にまで進化しつつ発展し、教育実績の顕著な蓄積と、他大学、高専、高校教育等への十分な社会的影響力を確認することができ、高く評価されました。ただし、学部・学科を横断した組織的な取り組みとしては必ずしも十分ではなく、新設の「教育推進室」が十分機能することが求められます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	電気通信大学	整理番号	1-2-072
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	「 ^{がくりょく} 楽力」によって拓く創造的ものづくり教育		
申請単位	学部単位		
申請担当者	石川 晴 雄		
<p>(取組の概要)</p> <p>近年、学生の勉学に対する動機や意欲が希薄化する傾向をたどっている。本プログラムは、「^{がくりょく}楽力（学習や創造活動を楽しむ能力）」の概念を中心に据えた「ものづくり教育」の推進により、学生に動機付けを与え、意欲を高揚させ、もって自発性、協調性、リーダーシップ、発表能力、創造性、社会性などを涵養する新しい教育課程パラダイムの構築を目指したものである。ここでは、従来の学期から離れ、可変長の期間のもとで、学生にもものづくりを体験させ、自らが自主的に企画・運営するコンテストや外部の各種コンテストへ参加させることを通し、競争的環境にさらし、その結果から満足感と達成感を体得させている。その成果は、数々のコンテストでの入賞や、教育賞の獲得により、すでに実証済みである。一方、「楽力」を体得した学生への教育効果も、他の学生に比べ、他教科への取組み、真理追究や工学的理解に積極的であることや、大学院への進学率が高いことによって明らかとなっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>コンテスト等によって動機付けを行い、学生が主体的に思考することを導く積極的な試みです。申請書からは、取組を支援する教官の態度にそれほど熱意が感じられる記述がありませんが、組織的に取組み、無理をせず長続きする方法で組織的に実行を支えていることが伺えます。ただし、取組の成否の測定ならびに評価については一考を要するところです。以上総合的に判断して、採択に値するものとなりました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	長岡技術科学大学	整理番号	1-2-065
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実務訓練（長期実践型実習）と教育効果		
申請単位	大学全体		
申請担当者	飯田 誠之		
<p>（取組の概要）</p> <p>技術科学を標榜し、創造的能力の啓発を目指す長岡技術科学大学は、教育面では実務経験を重視し、企業等における 4～5 か月の長期間にわたる実務訓練を教育プログラムに導入している。学部・大学院修士課程一貫教育を方針として、修士課程進学予定者には実務訓練を必修として課し、大学創設時から現在まで 24 年間で約 7,000 名に履修させた実績がある。国際的視野の獲得を目指す海外実務訓練についても 10 年以上の実績を持つ。教育効果の分析から、実務訓練の目的である「指導的技術者として必要な人間性の陶冶」と「実践的技術感覚を体得させること」を通し、大学院での研究活動の動機づけや職業選択など将来展望を形成させる上で極めて有効であることが明らかになっている。これらの実績を踏まえ、国際化・グローバル化時代への対応として、学术交流協定締結校との間で双方向的な国際実務訓練制度の構築を図り、また企業と連携した大学院での高度な技術教育プログラムの構築をも検討する。</p>			
<p>（採択理由）</p> <p>この取組は、長岡技術科学大学の教育目的・教育方針を実現するため、当大学の意思決定機関で決定され、組織的に実施されている取組であり、関係者の努力によって当初目標を達成するなど大きな成果を上げていると思われます。この取組は、24 年間にわたる実績のもとに、新たに海外実務訓練制度も加えた長期訓練を実施してきた点は、総合的に判断して優れており、他の大学の参考になる事例であると思われます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	名古屋大学	整理番号	1-2-055
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	創成型工学教育支援プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	平野 眞一		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、学生自らが課題を発見し、多様な視点からその本質を見極め、幅広い専門知識を統合して解を見出す能力を涵養する「創成教育」を、学部から大学院に亘るそれぞれの段階に応じたカリキュラムを立案し実施することを内容とするものである。学部では、「手引き書のない学生実験」、「卵落とし」などの創成型（デザイン型）科目を企画実施し、課題を発見できる資質としての創造性と、科目ごとの専門知識を統合して活用することができる総合性を涵養するための教育を行ってきた。一方、大学院では、「高度相互工学創造実験」のなかで、企業から招いたディレクティングプロフェッサー（非常勤講師）が授業の企画から実施・評価に至るまでの教育全般に直接関与し、専攻、研究科、大学を越えた異分野の学生が、現実の社会問題にかかる課題を設定し実験を進める教育を行ってきた。これら一連の取組は、社会が要請する主体的・創造的に問題探求・解決にあたることのできる実践的な人材の育成に資するものであり、学外からも高く評価されている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>名古屋大学工学部・工学研究科では、キャッチアップ型社会からフロントランナー型社会に転換した我が国で必要とされる、独創性・総合性を備えた人材の育成を目指した先導的な工学教育を、学部・研究科を挙げて推進しています。他大学・研究科・社会人からの受講者受入などという新しい方式も取り入れながら創成型工学教育を進めているところに特色があり、「手引き書のない大実験」のような具体的な実績も積まれています。時代をリードする人材を社会に送り出そうとする意欲が感じられ、高く評価できます。</p> <p>学部内での支援体制及び全学的な支援体制は整っており、財政的な支援も行われています。教育到達度に関する組織的な測定や評価は未だ行われていませんが、現在検討中だと思われま。</p> <p>明確な理念のもとに我が国における先導的な工学教育がなされており、すでに実績も積まれている、社会からの評価も高く、他の大学の参考になる優れたモデルであると思われま。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	豊橋技術科学大学	整理番号	1-2-069
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	社会のダイナミズムに連動する高等技術教育 －実務訓練を柱として－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	清水 良 明		
<p>(取組の概要)</p> <p>豊橋技術科学大学の教育の特色である学部・大学院の一貫教育に基づく実践教育が社会のダイナミックな要請に的確に応えられるように、その機能化・実効化を目指すものである。すなわち</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学術的な教育研究と社会での実地の経験を交互に体得させる、 (2) 就業体験を積みませ、高度な専門技術に触れさせながら実務能力を高めさせる、 (3) 多様な集団の中で共に学ぶことを通じて自主的に考え協調的に行動できる能力を身につけさせる、ことを目的とする。 <p>このため通常のインターンシップとは異なる産学連携の人材育成教育である実務訓練をこうした高等技術教育の柱として位置付け、その機能を基礎と専門を交互に発展的に適用するらせん型教育に一体化させることを試みる。そして実務訓練を通して動機付けられた実践的思考力を大学院教育・研究において醸成させ、予測不可能な未来社会の変化にも柔軟かつ適確に対応できる能力を養う教育課程の工夫改善を行うものである。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、豊橋技術科学大学の教育目的・教育方針を実現するため、当大学の意思決定機関で決定され、組織的に実施されている取組であり、関係者の努力によって当初目標を達成するなど大きな成果を上げています。</p> <p>現在は、社会・経済構造、産業構造のダイナミックな変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組はこうした社会の多様な要請にこたえるべく取組ということができます。また、産学連携による教育という特色を持つ実務訓練制度は、高度技術教育の目的にそった取組内容として一貫性があり、その組織的対応も保証されており、実績面でも説得力があります。他の大学の参考になる事例と思われます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	奈良教育大学	整理番号	1-2-135
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	現代的課題に対応する導入教育科目群の展開 －「考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成－		
申請単位	学部単位		
申請担当者	上野 ひろ美		
<p>(取組の概要)</p> <p>奈良教育大学では有能な教育者の養成をめざし、平成 11 年度の学部改組以来、専門性を視野に入れた教養教育科目としての導入教育科目群を設定している。特に学校教育教員養成課程の「学校教育基礎ゼミナール」と総合教育課程の「総合教育基礎論」とを課程の教育理念に即した導入教育の核として位置付けている。</p> <p>「学校教育基礎ゼミナール」は 1 回生全員 130 名対象の、ディベートを中心とした演習型の体験的授業で、現代的課題に対する問題意識、論理的思考力、表現力、組織力を育成する。「総合教育基礎論」は 1 回生全員 125 名対象の、環境・文化・情報・健康等と関わらせた教育の現代的課題に対する問題意識を培う講義形式の入門的授業で、思考力、表現力、行動力、想像力の獲得をめざす。</p> <p>いずれも 10 名前後の教員による TT 体制をとり、目的に即した教育効果を得、実践ならびに各年の報告書を公開してさらなる改善へとつなげている。</p> <p>その他の「情報機器の操作」「現代教師論」等の導入教育科目群も連動し「考える力」「表す力」の成果を上げている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>本取組は、有能な教育者の養成のために、学生に自ら学び方を学ぶ能力、十分な表現能力、コミュニケーション能力の向上をねらったものです。それらの能力向上は、教育界ばかりでなくひろく現代日本において大いに求められている課題です。それを達成しようとする全学的導入教育の科目群の設置には、多くの工夫と努力が認められ、他大学の参考となる特色性を持つものと考えられます。個々の授業についても、ディベート型演習、授業における学生のグループ化、チームティーチング、適切と思われる授業トピックの選択など他大学、高校、地域、企業などへの公開性を持つと思われれます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	和歌山大学	整理番号	1-2-009
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	自主性創造性を伸ばす教育方法の開発と推進		
申請単位	大学全体		
申請担当者	森本吉春		
<p>(取組の概要)</p> <p>和歌山大学では、自主的に物事を考え、創造的に課題を解決する能力のある学生を育てるため、1996 年度に、学生の自主的な活動に単位を与える「自主演習」を開設した。また、地域の若者の自主性創造性を養うため、学生自主研究コンクール、体験学習会、おもしろ科学まつり等、多様な活動を実施してきた。これらの活動をより強力に推進するため、2001 年度に他大学に例のない「学生自主創造科学センター」を学内措置として設置した。このセンターは、大学内の各学部や各センター、大学外の地域社会や産業界との連携を通して、本学学生を始め地域の若者の自主的創造的科学的活動を支援・促進している。また、これらの活動をテーマにして、自主性創造性を高める教育方法を研究・開発し、その推進を行っている。これらの取組は、自主性創造性のある人材を世の中に輩出し、科学技術創造立国の目標達成に貢献する。将来はこのような活動の全国の拠点となることを目指している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、和歌山大学の教育目的・教育方針である《個性輝く存在感のある学問の府の創造》を実現するため、和歌山大学全学の合意によって設置された全学センター「学生自主創造科学センター」の活動です。取組実績についても平成 8 年度の「自主演習」科目開設時からすでに 8 年にわたって組織的に実施されている取組であり、関係者の努力によって当初目標とした和歌山大学の学生を始め地域の若者の自主的創造的科学的活動を支援・促進するという目的を達成するなど大きな成果を上げていると評価されました。この取組は特に、大学と地域社会・産業界を結びつける学部レベルのブリッジ・プログラムとして優れた特色があり、他の大学の参考になる事例と思われます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	鳥取大学	整理番号	1-2-106
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	アウェアネスを持った学生づくり教育		
申請単位	大学全体		
申請担当者	重政 好弘		
(取組の概要)			
<p>近年の学生は、漠然とした学習目的はあるが、具体的な目標が掴めないために、不本意な大学生活を送る場合が多く見受けられる。鳥取大学では、いかにして学習への動機づけを行うかが教育上の重要課題となっている。一方、教育研究理念に“知と実践の融合”を掲げ、実践教育を重視した教育を行っており、本取組は企業フィールドや国際フィールド等の現場で学生自らが主体的に長期間、実体験することにより、また、履修科目の自由裁量の大幅な拡大を行うことにより、学習への動機づけを図り、学生の目的意識を明確にして学習への自覚（アウェアネス）を促し、学習意欲を大きく向上させることを目的とした取組である。なお、協力企業は、本取組のプロジェクト成果や学生の積極的な主体性を高く評価している。また、学生の積極性はボランティア活動への主体的な参加にも認められ、アンケートによる学生の本取組に対する満足度は高いものである。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は学習への動機付けを図り、目的意識を明確にし、学習への自覚のもとに主体的・積極的に学生の実践力を身に付けさせることを目的とするプログラムで「実践ものづくりプログラム」と「実践農学プログラム」の二つからなります。前者は企業フィールド学習と3年間の長期実施を特色とし、後者は国際フィールド学習と履修科目の自由裁量の大幅な拡大を特色とする目的意識をもった学生、さらには社会的使命に応える実践的人材の育成の手段として評価できます。また授業評価、GPA、JABEEによる評価等最先端の仕組みを積極的に導入しています。以上から、農学部取組は十分に評価できます。しかし工学部取組は未だ参加学生が少ないようです。このような問題点を解決する必要はありますが、この取組は大学の理念・教育のミッションに沿ったきわめて興味深くかつ優れた取組であり、他の大学の参考になる事例であると思われます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	香川医科大学	整理番号	1-2-147
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	6年一貫体制による保健医療福祉総合学習		
申請単位	大学全体		
申請担当者	高原 二郎		
<p>(取組の概要)</p> <p>6年一貫体制による保健医療福祉総合学習は、変化する社会・環境に対応しつつ、教養を備えた人間性豊かで、健康増進から予防、治療、リハビリテーションにわたる全人的、包括的医療が実践できる医師の養成を目指したものである。強調すべきことは、専門分化し、細胞・遺伝子レベルで考察しがちな医学・医療に対して、これらを統合し、実際の地域社会で生活する人々のレベルで保健、医療、福祉を捉えて、学習するようにしていることである。そのために、カリキュラムを全面的に見直し、「総合保健福祉医療学」を創設する等して、教養教育と連携した早期学習と統合型学習を行い、現場性と体験を重視している。具体的には、現場からの多くの講師による講義と演習、多種類の施設における見学実習、病棟における看護・介護実習、地域におけるボランティア体験、健康教育及びカウンセリングの具体的な技術修得等に力を入れ、さらに学年進行と共に、これらと連動して改革を行った基礎・臨床・社会医学教育を学ぶことにより、医療人としての専門性と社会性を高め、21世紀の社会の要請に応え得る医師の養成を目指したカリキュラムを策定し、実施している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>本取組は、保健医療福祉医療学を創設して、総合的視野に立った①保健医療福祉看護・介護論、②保健指導・心理行動科学、③少子高齢化社会の保健医療福祉、④ボランティア体験学習、⑤臨床心理/家族・チームケア、⑥時事医学を教育しようとするものです。これらは、時代的・社会的要請に応えようとするもので、とりわけ看護学科を擁する特性から、「保健医療福祉看護・介護論」をカリキュラム上に加えようとする点に特色があります。ここには、従来医療現場があまりにも医師優位であったことに対する反省が込められており、将来の医療の在り方にとって重要な意味を含んでいるものです。ただし、全体のカリキュラムを見ると、知識の教育に費やされる時間が他大学と比較して少ないように見受けられます(このことの反省が極端に出た例といえるところです)。とりわけ、新たに「保健医療福祉医療学」として取り上げられている中身には社会医学の内容が数多く含まれており、当該大学において必要だという議論があり決定されたこととはいえ、若干の危惧を禁じ得ません。また、本取組が医学教育においても最も重要な臨床実習にまで及んでいないこと、また4年しか経過しておらず6年一貫に対する評価が判定できないこと、学生の学修を記録管理する組織が明確にされていないことなど、様々な問題点も含んでいると思われれます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	長崎大学	整理番号	1-2-155
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	特色ある初年次教育の実践と改善 －教育マネジメントサイクルの構築－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	片 峰 茂		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組では、長崎大学の特色ある初年次教育カリキュラム（下記 1. -3.）に、大学教育機能開発センター（評価・FD 研究部門）が参画することにより、授業実践、授業評価、FD、授業改善から構成される教育マネジメントサイクルを構築し、教育成果の向上を実現するとともに初年次教育新マネジメントモデルを創成する。これにより、先進的センター機能の有効活用を進めるとともに、重要性が指摘されている初年次教育における新マネジメントモデルを実証的に公開し、他大学の取組への一助とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養セミナー（全学教育）：全学部教官が分担し、学部混在型少人数クラス編成で実施する自主的学習への動機づけ科目。 2. 専門共通科目（環境科学部）：文理融合型環境教育カリキュラム設計のコアとして、文系及び理系基礎科目と環境科学概論で構成する学部初年次生の必修科目。 3. リメディアル教育（工学部）：推薦入試で受け入れた専門高校卒業生を対象とした、基礎教科の学力を補うための補習授業。 			
<p>(採択理由)</p> <p>本取組は、長崎大学の初年次教育である全学教育の教養セミナー、環境科学部の文理融合共通科目、工学部のリメディアル教育に、大学で開発した教育実施改善の「教育マネジメントサイクル」を組み込むもので、本格的な教育実施改善のサイクルの導入に先進性がみられます。その本格実施は、平成 14 年度に新設された大学教育機能開発センターの機能の活用によるところですが、14 年度の効果実績やこれまでの FD の優れた実績等から、その実効性と有効が十分に期待でき、他の大学の参考となる事例です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	金沢美術工芸大学	整理番号	1-2-001
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	国際的芸術家滞在制作事業（アーティスト・イン・レジデンス）		
申請単位	大学全体		
申請担当者	中川 衛		
<p>（取組の概要）</p> <p>金沢美術工芸大学における国際的芸術家滞在制作事業（アーティスト・イン・レジデンス）は、世界の第一線で活躍する著名なアーティストを招へいし、一定期間本学に滞在して学生及び市民と共に創作活動やパフォーマンス、ワークショップ等を行い、その創作現場を共有することにより、学生の創造力向上等の教育効果を上げつつ、広くその成果を社会に公開し、地域の文化振興、産業振興等に寄与しようとするものである。</p> <p>金沢美術工芸大学は、卓越した文化と芸術の伝統が息づく金沢の地において、昭和 21 年の創立以来、その伝統を受け継ぎながら、常に世界の新しい芸術潮流に呼応し、伝統的文化価値に革新の息吹を吹き込むことに努めてきた。</p> <p>この取組は、地域に根ざすと共に世界のアートシーンに向けて新たな芸術思想を発信しようとする、ローカルにしてグローバルな試みとなっている。</p>			
<p>（採択理由）</p> <p>本取組は、海外から現役芸術家を大学に一定期間滞在させ、創作活動を学生に公開することによる芸術教育です。この試みは学生・市民へ芸術分野での刺激を与えるという点でユニークなものです。本取組は、美術工芸分野ばかりでなく、音楽、スポーツ、舞台、演劇、伝統文化活動などの分野でも参考となり、共通性、公開性の点からも評価することができます。また財政的には、設立母体の地方自治体が支えており、公立大学の特徴を活かした試みであり、支援体制、組織性からも評価可能です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	自治医科大学	整理番号	1-2-162
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	自治医科大学におけるプライマリ・ケア教育		
申請単位	学部単位		
申請担当者	梶井 英治		
<p>(取組の概要)</p> <p>自治医科大学は、へき地（医師不足地域）の医療と福祉を確保するため、都道府県が共同して設立した医科大学である。従って、当大学は、進んでへき地医療に挺身する気概を持ち、人間性にあふれた医師を養成することを目的としてきた。</p> <p>当大学の卒業生は卒後間もなく山間や離島を含む第一線での医療に従事するので、当大学は開学以来、幅広い診療能力を有するプライマリ・ケア医の養成に努めてきた。その目的を達成するために、自治医科大学は我が国の医科大学で唯一の地域医療学講座を創設し、同講座を中心として、プライマリ・ケア医の養成を志向した、システム化された教育課程を構築してきた。</p> <p>今日、幅広い診療能力を有するプライマリ・ケア医が国民から強く求められている中、当大学の試みと実績は他の医科大学での教育カリキュラム作成に大いに参考になると考える。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>近年、医療者の育成に関し各方面から様々な指摘がなされ、各大学が反省の時期に入っています。その中であって、自治医科大学はプライマリ・ケアの重要性を取り上げ、その具現化のためのプログラムを提案しています。このことは、設立の目的とも一致し、またこれまでの取組に特長があるとともにその成果はわが国の医学教育界で評価を受けています。今後プライマリ・ケアおよび僻地医療の重要性を他大学にアピールするとともに、自らも進んで総合的な能力を持ち僻地医療の実践を担う医師の養成に一層努めることを期待します。</p>			

平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北里大学	整理番号	1-2-108
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	新時代の医療を担う薬剤師養成教育の実践		
申請単位	学部単位		
申請担当者	小宮山 貴子		
(取組の概要)			
<p>北里大学は、日本の薬学教育に不足していた「医療人としての質の高い薬剤師養成」の教育を、実務実習とその事前教育の工夫改善によって充足し、基礎薬学と臨床薬学を両輪とする「新時代の薬学教育モデルの構築」を目指して長年にわたり段階的に取組んできた。同じキャンパス内にあり、教育連携をとる北里研究所病院内に薬学部臨床薬学研究センターを設置したほか、2つの大学附属病院や実習委託薬局、米国ケンタッキー大学など国内外の諸機関と密接な教育連携を図りつつ、学士課程と修士課程を連結させた薬学6年一貫教育モデルを体系化した。学年毎に、到達目標と方略、教育成果の評価法を設定すると同時に、患者の視点を有したヒューマニティーの育成など、教授法や実習方法にも工夫を加えた。本取組は、これら教育課程の工夫改善を通して、学生に「薬の専門家」としての責任の重さを強く認識させ、医療現場で高度に役立つ薬剤師を養成しようとするものである。</p>			
(採択理由)			
<p>「薬学基礎教育と医療現場の有機的連携」および「実践能力に長けた薬剤師の養成」を目的として提案されたプログラムです。現在の薬剤師養成教育にあっては、医療の現場に役立つ人材の育成が求められており、本プログラムは学部ばかりでなく修士課程までも取り込んだ「臨床薬学」を重視する教育体制に特色があり、現在議論の進んでいる薬学部6年制のモデルとして考慮されるべきものと考えられます。</p> <p>しかし、現行制度下では学部卒業後に国家試験受験資格が与えられ、薬剤師となったものが今回提案されたような修士課程の教育を受ける機会が少ない状況にあり、したがって、現職薬剤師のリカレント教育という観点からも本プログラムが利用されることを希望します。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	中央大学	整理番号	1-2-038
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	アカデミックインターンシップの全学的展開		
申請単位	大学全体		
申請担当者	小口 好昭		
<p>(取組の概要)</p> <p>中央大学は、「アカデミックインターンシップ」と「キャリアデザインインターンシップ」との融合によって、学生の学習意欲と就業意識の向上に積極的に取り組んでいる。アカデミックインターンシップは、1993 年開設の経済学部公共経済学科において、公共部門での体験学習を促進するために、自治体等の強力な支援を得て 4 単位の正規科目として初めて導入した。この成果をモデルとし、1998 年の学長・学部長会議の決定に従い、文学部の学校インターンシップなど各学部がそれぞれの特色を生かしたプログラムに基づくアカデミックインターンシップを全学的に展開している。また、正規科目および課外活動でこれのサポート体制を整えている。さらに、並行し、キャリアデザインインターンシップを開発し、キャリアセンターを中心とし実施体制の充実を図っている。目下、これら 2 つのシステムを有機的に関連づけ、人的・物的資源と情報の共有化、支援体制の充実を図るための全学的組織を整備している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>中央大学の「アカデミックインターンシップの全学的展開：教育とキャリアデザインの融合をめざして」の取組は、1993 年に経済学部の先駆的イニシアチブとして開設したインターンシップ科目を、キャリア教育の考え方で融合し、全学部の「アカデミックインターンシップ」と就職部の「キャリアデザインインターンシップ」の形に展開してきたものです。</p> <p>全学的インターンシップの展開例として、大規模総合大学にとっては大変参考になる取組です。今後は、多くの学生がこのプログラムに参加して学習上の利益を得るようになること、また学内の支援体制やインターンシップの評価体制がさらに整備されていくことになると、実績に裏打ちされた特色ある取組になることが十分期待できるものです。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京理科大学	整理番号	1-2-105
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	全寮制に基づく全人的教養教育 一人と自然とのふれあいの中で		
申請単位	学部単位		
申請担当者	渡辺 恒夫		
<p>(取組の概要)</p> <p>東京理科大学は、豊かな人間性・社会性を備え学際的・融合的先端分野で活躍しうる人材の育成という新しい視点に立って、1987年に基礎工学部を設立した。この趣旨に則り、新しい教育方法による教育改革を目指し、1年次の教養部を北海道長万部キャンパスに設置し、全寮制に基づく全人的教養教育を展開してきた。その狙いは、大自然の中に学生を解き放ち人間性と創造力を醸成し、全寮生活を通し学生の協調性や自主独立の精神を涵養していくことにある。さらに、この目的を徹底させるため、教育に情熱を燃やす教員と充実したカリキュラムによるきめ細かな学習指導のみならず、種々の自然観察や自然を活用した体育さらに地域社会・住民との交流も教育に取り入れてきた。このことは、単なる知識偏重型の教育を脱却し、新世紀に相応しい総合的な知を育む全人的教養教育を基盤とする教育体制を創出したものであり、本取組は、そのさらなるブラッシュアップを目指すものである。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>全寮制は他大学に見られない特色であり、人間関係が希薄な昨今の時代性において、1つの注目すべき実験です。その実験を行うに相応しい地理的環境を得て、16年間継続的に実施し、人間形成の側面のみならず、大学院の進学率など学業面においても着実な成果を上げてきています。全寮制においてのみ実現可能な時間割編成やカリキュラム編成に一層の工夫を凝らし、更なる成果を上げることが期待されます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	武蔵野大学	整理番号	1-2-002
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	キャリア開発プロジェクト		
申請単位	大学全体		
申請担当者	齋藤 諦 淳		
<p>(取組の概要)</p> <p>(目的) 学生に実践的能力を身に付けさせることを目指した武蔵野大学の大学改革の一環として、卒後必要な、社会人・職業人としての基礎的な資質・能力の育成に取組むことを目的とする。</p> <p>(実施状況)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 正規の教養教育科目としてキャリア開発科目群を開設 2 エクステンションセンターで資格取得対策講座を開設 3 就職活動を援助する具体的な就職支援プログラムを実施 <p>(特色) 「キャリア開発科目群」に特に重点をおき、これを含め「資格取得対策講座」「就職支援プログラム」の3側面から総合的に教育・指導し、教育に当たっては、社会の実践的な教育力を活用することをねらいに、企業等で活躍している外部の社会人を非常勤講師等に登用している。</p> <p>(実績) 平成12年度から全学的取組を始め、学生に卒後の進路についての取組や職業に必要な技能の習得等を促し、学生の授業評価も高く、十分な教育成果をあげている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、武蔵野大学の教育目的・教育方針である人格教育に加え、キャリア開発プロジェクトを通じて実践力を身に付けた人材育成を実現するため、全学部、学部長会議および理事会の議を経て決定され、すで4カ年にわたって組織的に実施されている取組であり、関係者の努力によって、職業観・社会観の涵養、職業に必要な技能や資格等の習得、就職率の向上などに大きな成果を上げています。この取組は特に、キャリア開発の下に、職業観・社会観の涵養、職業に必要な知識・技能の習得、主体的に進路を選択する能力・態度の育成という三つの側面から総合的に教育・指導し、また、社会の実践的な教育力を活用することをねらいに、企業等で活躍している外部の社会人を非常勤講師等に登用することなどについて優れた特色があり、他の大学・短期大学に対し十分参考になる事例と思われれます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	早稲田大学	整理番号	1-2-041
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実践的知の確立を目指す現代型教養教育 —総合大学からの試み—		
申請単位	大学全体		
申請担当者	白井 克彦		
<p>(取組の概要)</p> <p>早稲田大学では、「新たな知の枠組」の創造をめざし、実践的で時代性を備えた新しい教養教育を推進するために、2000年12月オープン教育センターを創設した。そこでは、早稲田大学の強みである規模の大きさや学問分野の幅広さ、学内外の豊富な人材をいかした教育を積極的に推進するとともに、その一方で従来の教育の枠を打ち破る斬新でユニークな取組を展開している。2500科目におよぶ「オープン科目」は、全学部の学生に加え、他大学生や高校生など多様な背景を持つものが共に切磋琢磨する学習環境となっている。また、大学教育の常識を超え、①学生4人までの英語教育「Tutorial English」や20人までの学部横断ゼミの集合体「テーマカレッジ」などの徹底した少人数教育、②現代社会の課題を生きた教材とし、社会の第一線で活躍する人々と議論を闘わせる「大隈塾」などの社会連携科目、③「インターンシップ」や「ボランティア」の実習教育など、知的刺激に満ちた取組を次々と展開している。履修した単位は卒業必要単位となり、年間約40,000人が履修している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>全学が一体となって学部教育を担う「オープン教育センター」を創設し、教養教育の改革に大胆に取り組んでいる事例です。新入生を対象とし、教員の自発的なテーマ設定のもとで、学部横断的に開設されるゼミ「テーマカレッジ」のアイデアはユニークなものであり、また、4人の学生が1人のチューターから実践的英語を学べる「Tutorial English」も、大規模大学における徹底した少人数教育として革命的な取組とすることができます。多くの論客たちを講師に招いての「大隈塾」など、社会との連携を意識した科目の開設によって「実践知」の修得を目指す教育展開は、他大学にとっても大いに参考になるものと評価されました。なお、運営体制の面では、センターに専任教員を置かず全学出動型としたり、英語教育のチューターをすべてアウトソーシングでまかなうなど、高度なマネジメントを要する点もありますが、新しい試みとして多くの大学に刺激を与える取組と思われます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	立命館アジア太平洋大学	整理番号	1-2-102
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	多言語環境における日英二言語教育システム		
申請単位	大学全体		
申請担当者	慈道 裕治		
(取組の概要)			
<p>本取組は、1) 言語能力の育成、2) 価値的多様性の下でのコミュニケーション能力の涵養、3) 政策思考の専門力量の育成を通じて、立命館アジア太平洋大学の理念である「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を実現しようとするものである。</p> <p>この取組の基盤は、世界 66 カ国・地域の学生と 17 カ国・地域からの教員という多言語環境である。この上に立って、言語教育と基礎・専門教育を連携させた教育を行なっている。言語教育では、週 4 回の集中学習、到達度別科目編成、コンテンツ・ベース教育、付接モデルなどを実施している。基礎・専門教育では、日本語で開講する科目と英語で開講する科目はほぼ半々であり、全科目のうち約 7 割は両方の言語で開講している。</p> <p>学生は、日本語または英語のいずれかで所定基準を満たせば入学できる。日本語基準で入学した学生は、英語の学習を行ないつつ日本語で授業を受け、3 年生以降は英語でも授業を受ける。こうした教育課程設計により、多言語環境を活かし、言語教育と基礎・専門教育の連携により本学の理念を実現する学生を育成するものである。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、立命館アジア太平洋大学の教育目的・教育方針である「多様な学生・教員構成を活かして、国際社会で活躍できる人材の養成」を実現するため、設置の主旨に添って全学的試みとして決定され実施されています。成果を問うにはまだ早い段階ですが、我が国にこれまで例を見ない斬新な取組から我が国の大学教育の将来を展望する上で、優れた特色があり、他の大学の参考になる事例と思われます。特に、多言語・多文化環境での二言語教育の実践など、他に例を見ない意欲的な取組であると評価することができます。今後は、その発展の過程での継続的成果（到達度）評価などが期待されます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	青山学院女子短期大学	整理番号	2-2-039
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	外国人教員による英語のコーディネート授業		
申請単位	学科単位		
申請担当者	加納 孝代		
<p>(取組の概要)</p> <p>青山学院女子短期大学英文学科では 1 年次に Introductory College English、2 年次に Intermediate College English という必修科目を置いている。いずれも教材・副教材・宿題・試験問題等の内容を統一し、週単位で進度を揃える「コーディネート授業」である。授業は英語のみで行われ、12 名の英語のネイティブ・スピーカーの教員チームが担当する。教材もそのチームが自主作成し、3 年をめどに全面改訂する。2 年次の授業は、現代世界の重要課題を論じた文章を読み、要約を作り、議論をし、自分の意見を書き、クラス全員の前でプレゼンテーションをするという形で進む。2003 年度のテーマは「Health」「Rich and Poor」など 4 種である。1 年次の授業では 2 年次でのその授業に取り組む基礎力を育てるために、英英辞書の活用、パラグラフ・ライティング、多種で多量の英文を読むスピード・リーディングなどの能力を、週 3 回の少人数クラスで徹底的に訓練している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>キリスト教主義に基づいた教育と学問研究という建学の理念のもとに、国際理解を深め英語力を高める取組であり、10 年以上英語教育の経験のあるネイティブ・スピーカーによる語学のコーディネートがされ、「読む、聞く、書く、話す」の 4 技術が総合的に訓練されることにより、学生達にとって確実に語学力のつく授業です。日本人の語学教育を向上させるすぐれた教育方法であり、小、中、高の英語教育を見直すことにも大きくつながります。国際社会での日本のあり方を考える面でもぜひ定着させたいプログラムです。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	産能短期大学	整理番号	2-2-045
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	体験学習「課題実践」を核とする教育課程		
申請単位	学科単位		
申請担当者	池内 健治		
(取組の概要)			
<p>本取組は、開学以来の教育目標「マネジメント実践力の育成」を、時代にマッチした新たなアプローチで実現することをねらいとしている。「マネジメント実践力の育成」を「働く基本能力の育成」と捉え直し、その実現を目的とした教育課程を編成した。この教育課程は体験学習の方法を学ぶ導入科目群とリテラシー科目群をベースに、核となる科目「課題実践」プログラムから成り立っている。</p> <p>「課題実践」は、学内外の依頼者から依頼を受けた課題テーマを約 25 名のクラスで、1 年間を通してチームで課題達成する体験学習授業である。全学の共通科目(必修)として位置づけ、教育成果をあげるために教員の授業能力の向上をはかる FD 活動の確立及び教職員組織が連携した運営支援システムの確立に努めている。教育効果の測定は多面的な評価方法を採用しており、その結果から学生の学習への動機づけや働く基本能力の向上を捉えている。今後更に学生が高い学習効果を得られるように体験学習の教育研究を継続して行く。</p>			
(採択理由)			
<p>建学の精神に基づく「マネジメント実践力の育成」を総合的な体験学習による課題実践により実現したものです。一年次では「課題実践」に必要な学習方法をマスターし、それを基にして二年次において 1 クラス 25 名の少人数で体験学習を行うわけですが、自己学習力の向上に加え、活動を通して学生間のコミュニケーションも深まり、社会性もつちかわれます。教員の授業運営能力も問われる授業ですが、授業参観や教員研修を行うことにより教員の能力も高めています。社会が必要とする能力をそなえた人材育成開発プログラムとして大変成果が期待できるものです。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	湘北短期大学	整理番号	2-2-057
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	短期大学における社会体験教育の多面的展開		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	小松 恵一		
<p>(取組の概要)</p> <p>学生に社会体験を与えることにより、実社会への理解とそれに基づく勉学意欲や社会性の向上を狙う、二つの相補的な教育手法を実践してきた。</p> <p>第一は所謂インターンシップで、平成 5 年以来派遣先の職種や期間など多様な拡充を続け、既に 1000 人以上の学生派遣実績がある。教員のきめ細かい事前・事後指導により大きな教育効果を上げ、また教員は企業との交流を通じて社会ニーズを把握し、教育内容に反映させている。</p> <p>第二は有志学生が擬似会社的なチームを作り、学内外から受注した実際の業務を実行する独自の仕組み“SHOHO”である。企画・開発・製造・納品など一連の擬似企業体験を通じ、自主性やチームワーク力を養い、成果の経済価値やコスト・採算性など、企業人に必要な基礎知識を実践的に学ぶことができる。</p> <p>これらは従来型授業に比べ遥かに高い満足度を学生に与え、勉学意欲や社会性の顕著な向上をもたらすとともに、高就職率の維持に寄与している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、湘北短期大学の「実技を通じて智識のみでなく、世の中を生きていく、人を率いていける人柄を身につける」という教育理念を実現するために、文部科学省が近年提唱する「キャリア教育」について、インターンシップをはじめとする多面的な社会体験的教育の取組をすでに 10 年にわたって全学的に推進しており、1000 名をこす経験者を数えるなど大きな成果があがっています。特に、SHOHO と名付けられた模擬企業の取組は、学外企業からの協力を得ながら学生たちのリーダーシップを涵養していくという優れた特色をもつ試みであり、また短期大学内で業務をもとに模擬企業が組織されている点など、他の短期大学に大いに参考になる事例です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	新潟中央短期大学	整理番号	2-2-003
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	総合学習としてのミュージカルの制作と上演		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	寺川悦男		
<p>(取組の概要)</p> <p>この教育活動は、単なる芸術教育の領域にとどまらず、学生の保育・幼児教育に関する知識・理解の深化を促進すると同時にその人格的成長に大きな教育効果を挙げている。</p> <p>(趣旨) この取組は、保育に関する総合学習の場として設定したものであり、「新潟中央短大ミュージカル」の呼称で、毎年学生主体の芸能発表会を開催している。</p> <p>(実施状況) 上演会場は地元の劇場を舞台に、入場無料で発表し評価を仰いでいる。試行錯誤を繰り返しながら、18年間、一度も欠かさことなく実施している。</p> <p>(特色) このミュージカルが、全学態勢の取組になっている点と、過去の上演をとおして、地域と密接に結び付いた文化、芸術イベントとして定着し評価を得ている。</p> <p>(評価) 授業中に見出せなかった、学生たち一人一人の潜在能力の発見、行事が成功することによって導かれる感激や帰属意識の高まり、自信と誇りの深まり等の教育効果は何ものにも代えがたいと評価している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、優れた表現能力を備えた保育者を養成する上で、適切かつ優秀な総合的教育活動として評価できます。</p> <p>実は、類似の活動は多くの短期大学でも見られるところですが、この取組が非常に小規模な単科短期大学によって18年間の持続的な実績を重ねている点が注目に値します。ごく限られた人的資源を最大限に活用している努力が窺えます。また、地域社会によく受け入れられ、地域の学童多数の共演を得て貴重な文化を形成している等、地域密着型の短期大学のあり方を示す好例と言えます。</p> <p>今後も地域社会とのコラボレーションを多面的に進めるとともに、制作面での学生の主体的参加を一層促す等、さらなる発展を期待します。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	山梨学院短期大学	整理番号	2-2-002
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	卒業要件科目「社会体験講座Ⅱ」 『YGU 日本列島横断リレー ―フォッサ・マグナを歩く―』		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	三神 敬子		
(取組の概要)			
<p>本講座は、山梨学院短期大学「教育課程」において伝統的に行われてきた「社会体験型学習」の実績と課題をふまえ、発展的な取組として平成 14 年度に新設した卒業要件科目である。</p> <p>全学科 1 年生が、年度当初より実施計画に着手し、詳細な事前学習の後、9 月中旬に延べ 10 日間の日程で、「YGU 日本列島横断リレー」を実施する。</p> <p>本講座の目的は、①公共性の向上と人格形成、②自主的問題解決能力の育成、③地域・社会理解の促進である。具体的な実施内容は、山梨学院短期大学を中心として太平洋から日本海にわたるフォッサ・マグナを、糸魚川ルート 10 区間及び富士川ルート 5 区間の計 15 区間に分かれ、『たすき』をつなぎながら、学生が自主的に選択した 1 区間の自然、文化、産業に触れながら、1 人平均 20 km 以上を歩くものである。</p> <p>本教科目の評価は、出席状況、活動への取組、体験レポートの内容等総合的に行い、卒業要件「演習 2 単位」とする。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、「地域文化の創造拠点となることを目指し、地域産業等の分野で地域に貢献できる人材を養成したい」とする山梨学院短期大学の教育目標によくマッチしており、企画の意図、実施体制、学生支援体制、規模等において優れた取組です。地域に根ざそうとする短期大学が地域社会との交流や地域社会への貢献を強化するためには、こうした総合的体験学習は有効な手法であると判断でき、本取組は他学の参考になり得ます。</p> <p>まだ 2 年目が進行中であることから、本格的な評価を下すには早過ぎるのですが、前年度の反省点を踏まえた改善が認められます。今後も積極的な改善を重ねることによって、本取組が一層充実するよう、期待します。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	龍谷大学短期大学部	整理番号	2-2-060
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実習事前指導の体系的な実施 —ボランティア活動の活用を中心とした取組—		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	阪口 春彦		
<p>(取組概要)</p> <p>社会福祉現場実習は福祉人材養成における重要な柱であり、その充実が社会的に求められている。その実習教育の効果を向上させるためには事前指導がカギであることに着目し、多様で体系的な実習事前指導の教育プログラムを構築した。</p> <p>実習事前指導の教育プログラムの中に、ボランティア活動などの福祉体験活動を取り入れたことが本取組の最大の特色である。現場実習を行う前に実施したボランティア活動の体験は学内での学習にフィードバックされ、学生の学習意欲や理解力を向上させている。</p> <p>また、福祉現場に慣れ、現場実習において求められる実践力を修得する機会ともなり、現場実習の教育効果を向上させている。そして、この実習事前指導の多様な教育プログラムを確実に実施できるように、①担当教員間の情報共有・連絡のための情報管理システムを整備していること、②ボランティア活動をコーディネートするセンターを全学単位、学部単位ともに設置するなど重層的な支援体制を整備していることが、組織上の特色である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、龍谷大学短期大学部の「浄土真宗の精神に基づき実際に即した専門教育を施し、併せて有為の人材を育成する」という教育理念を実現するために、社会福祉科教員全員が担当し、組織的に実施されており、体系的に、現場実習としてのボランティア活動を中心とする特色ある優れた取組です。特に、2年次後期の全員参加の合宿研修による現場実習に向けて、1年次後期に実習事前指導と専門教育への導入としての「福祉体験活動」を位置づけてあり、事前指導の効果を高める上で大変に意義の深いものと思われま。また、それを学園全体としてボランティア・NPOセンターが支援するという組織的な体制は、他の短期大学に大いに参考になる取組です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪女学院短期大学	整理番号	2-2-053
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	大学における英語教育と教養教育の統合		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	智原 哲郎		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、教養教育（人格教育）と英語教育を統合し、グローバル化する現代社会に積極的に関わろうとする人間の育成のために、知的レベルでの英語によるコミュニケーション能力を獲得することをねらいとしている。</p> <p>現代の世界／社会に関わる諸問題を、学科目として四つのコア群に編成し、4 技能を統合し、コンテンツベースの「英語で学ぶ」学習課程を展開している。テキスト／教材は、大阪女学院短期大学で開発、編成され、あらかじめ設定された授業内容、授業展開方法及び評価方法で、統一された授業を実施している。</p> <p>教育効果は、学生による達成度評価や標準テストなどによって確認されており、学生に一定の達成感や満足感を与え、また英語運用能力が一定の伸びを示していることが分かる。さらに、学生が、この教育課程によって促された問題意識の立ち上がりから、国内外の四年制大学の多様な学問領域への編入を果たしていることも、本取組が学生の学習姿勢と学習動機を豊かにしていることを示している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、大阪女学院短期大学の教育目的・教育方針である英語で学ぶ英語専門教育を実現するため、当短期大学の教授会、カリキュラム委員会での審議を経て、すでに 16 年にわたって組織的に実施されている取組であり、関係者の努力によって当初目標とした英語運用力の伸長、学習の動機付けを達成するなど大きな成果を上げています。この取組は、特に英語専門教育に大学の理念からなる 4 つのコアを設定した教養教育を結合させ、独自の開発、調査研究、ニュース、新聞などの教材を用い、1 年次に読む・聞く・ディスカッション・文章表現の一連を、2 年次には調査研究をテーマに、リサーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・リサーチペーパーの作成手順を、更に国際理解を深める学習を「英語で学ぶ」教育方式で取り入れ、学生に対して高い学習上の利益を上げていることについて優れた特色があり、他の短期大学の参考になる事例です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	香蘭女子短期大学	整理番号	2-2-009
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	ユニット方式による総合学科のカリキュラム		
申請単位	学科単位		
申請担当者	坂根 康 秀		
<p>(取組の概要)</p> <p>短期大学に総合学科を設置し、専門科目を 8 単位で括ったユニット方式のカリキュラムを実施している。学生は自分の興味と関心に基づいて、多彩な分野からユニット単位で履修する。このメリットとしては、「8 単位に括ったことにより、一定のまとまりある知識を身につけることが可能」「セメスター制を原則とし、秋季入学者にも対応しやすい」「ユニットの組み合わせで資格等に対応できる」「長期履修学生はユニット毎に履修計画を立てやすい」「社会人をユニット単位で受け入れることも可能」などがある。また従来の学科の垣根を越えた横断的な教育課程に基づいて学ぶことも可能である。そして入学後に複数の専門領域を学び、その中から、自分の興味あるいは適性に基づいて学ぶ分野を絞り込むことも可能である。</p> <p>なお、このユニット方式のカリキュラムは総合学科のみではなく、従来の学科においても適用できる方式であり、他大学の参考になるものとする。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、香蘭女子短期大学の教育目的・教育方針である「ユニット方式による総合学科のカリキュラム」を実施するため、香蘭女子短期大学の教授会やライフプランニング総合学科での審議を経て、平成 15 年度から組織的に実施されている取組です。この取組は特に、地域総合科学科に適合する日本での最初の学科として立ち上げられており、そのカリキュラム構想、ユニット方式、アドバイザー制度などについて優れた特色があります。他の短期大学の関心も非常に高く、参考になる事例であり、今後とも実績を積まれることを期待するものです。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	新潟大学、長崎大学、富山大学	整理番号	3-2-009
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	ものづくりを支える工学力教育の拠点形成 ～創造性豊かな技術者を志す学生の連携による教育 プログラム～		
申請単位	共同		
申請担当者	丸山 武 男 (新潟大学)		
(取組の概要)			
<p>新潟・長崎・富山の 3 大学工学部は、全国の国立大学に先駆けて専門高校卒業生の受入れ、入学後の教育について 10 年におよぶ補習授業と共同研究をすすめてきている(日本工学教育協会賞受賞)。その経験から、工学教育全体が「ものづくり」にもう一度立ち戻ることの必要性を強く認識した。特に 3 工学部は、専門高校卒業生と普通高校卒業生とが共同することで相互刺激する環境をもっている。</p> <p>本取組は、学生の連携と教員のネットワークによって工学力に向かう教育プログラムを計画実践するものである。「工学力」とはものづくりを支える総合的な力であり、工学全領域に共有されるものづくりの知識プラットフォームとして「学ぶ力」と「つくる力」で構成される。本プログラムは、1) e-learning やデジタル教材の開発によるリメディアル教育 2) ものづくり・アイデアコンテスト 3) 工学力教育センターによる工学力教育プログラムの開発 という 3 つが柱となり、その工学力教育モデルは全国に発信され、工学力教育の拠点を形成するものである。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、新潟大学、長崎大学、富山大学の各工学部が、「ものづくりを支える総合的な力」としての「工学力」育成を目指して開発した教育プログラムです。3 大学連携による先導的取組として注目に値するものです。相対的な意味でものづくり経験・意欲に富む専門高校卒業生と、基礎学力に優れる普通高校卒業生という、各々の特徴に配慮した教育プログラムの開発は、公共性と共通性に富んだものです。平成 6 年度以降共同して、専門高校卒業生を対象としたリメディアル教育に関する調査研究、プログラム開発と実践を蓄積してきた 3 大学の実績に期待します。</p>			